

健友俳壇 第19回

(令和5年7月)

健友俳壇は、会員の皆様が気軽に参加できる事業として、会報第72号（平成26年7月号）から掲載が始まり19回目となりました。今回は、春の「健友旅行」が実施されました。

一般の句10名、旅行の句15名の会員から投稿があり、25句の選句と講評をさせていただきました。今回の講評は、板橋区俳句連盟にお願いいたしました。

一般の句

●特選（2句）

◎ 恋猫に しばし沈黙 ありにけり 島田 あい

中七の「しばし沈黙」が良い。聞き慣れた恋猫の鳴き声がしばらく止んだ。

◎ 老犬の 冬毛鋤く庭 雪解風 茂木 良一

雪解の頃の風・ひんやりと頬に冷たい。老犬も作者と一緒に雪解風を共有している。

●入選（3句）

◎ 遠雷に これで帰ると 竿を振る 武居 正次

遠来を聞いて、雨の降らないうちに最後の竿の一振り。釣果のほどは・・・。

◎ 無機質の 部屋に華やぐ ボタン花 青山 幹子

綺麗に片付けられた部屋、何となく味気ないが牡丹の華やかさと明るさが際立つ。

◎ 港みらいの 小魚いっぱい 秋うらら 日野原 志津江

みなとみらい線に集まって小魚のたっぷり入った昼食を楽しんだ秋の日のひととき。

健友旅の句

●特選（2句）

◎ 江の島の 夕波光る 春の旅 細井 榮一

美しい作品。一句の流れが心地よい。

◎ うららかな 帆にうけ滑る 片瀬浜 宮川 修一

季語も良い、江の島の片瀬浜の景色が映像的で、作品の韻律が良い。

●入選（3句）

◎ 春の海 夕陽に揺れし 鳥帽子岩 山田 常雄

おだやかな春の海に浮かぶ鳥帽子岩、夕陽の中で揺れているように見える。

◎ バスハイク ゆられる光に さくら咲く 久田 恵律子

バス旅行で揺れながら窓の外の景色を楽しんでいたら、桜の花が咲いているのを発見した。

◎ 砂浜の 白泡消えて しらす干し 茂木 良一

砂浜の白い泡が消えて、しらすを干している。物を良く見て書いている。

投稿の句

●一般（5句）

◎ 風薫る 朝の木々間に 二人道 田村 弘浩

◎ 梅雨の夜や 轆りを待つ 老いの日々 山田 常雄

◎ 春塵で 黄砂の輸出 隣国や 榎本 一郎

◎ 水桶に 並べてヒラヒラ メダカたち 日向 義博

◎ 鎌倉路 雨も似合いの あじさい号 日向 日出子

●健友旅（10句）

◎ 若芽ます こゆるぎの浜 春が行く 小野 ミチ子

◎ 三崎へと キャベツ畑の 波を越え 岩瀬 雄一

◎ たかばみと おごりの花咲く バスの旅 佐藤 昭弥

◎ エボシ岩 ぼんやりさせる 春霞 日向 日出子

◎ 春の旅 ポカポカ陽気に うでまくり 田中 範行

◎ バス旅行 レジオンペイで 窓も見ず 竹内 喜美枝

◎ のどけさや 三崎のまぐろ 波がしら 田村 弘浩

◎ 春びより 魚の顔が 友をよぶ 石田 建生

◎ 厚切りを 三崎で味わう 春旅行 古賀 のり子

◎ コロナ過ぎ 旅で鮓に 舌鼓 榎本 一郎